

全ての「会長のひとりごと」がWEBで読める!  
「くぼかわよしみち.com」毎月20日更新!!

くぼかわよしみち.com

検索



アサヒグローバルホーム(株) 代表取締役会長  
ゴールドトラスト株式会社 取締役会長  
ゴールドエイジ株式会社 取締役会長  
文/久保川 議道  
text:Yoshimichi Kubokawa

## 『コロナ』とは何だったのか…



● asahiglobal.co.jp  
● super-chintai.com  
● goldtrust.co.jp  
● otona-souzoku.com  
● goldage.co.jp  
● kubokawayoshimichi.com

2020年1月16日は日本初の新型コロナ感染者が確認された日でした。ここで区切つて今年の2021年の1月15日までの、1年間の日本の新型コロナの陽性患者数は「31万7,838人」となります。

この1年間の死者数は「4,419人」でした。しかしこの死者数は癌で亡くなつても肝硬変で亡くなつても交通事故で亡くなつても、亡くなった時のPCR検査で陽性であれば全てコロナの死亡数とされた人数です。ですから本当にコロナだけが原因で亡くなった患者さんは、私の計算では1/10以下の「4,000人」くらいだと思います。1億2,600万人の中の400人は30万人に対してお二人のお亡くなり。恐い恐いと言われるコロナでも、亡くなった人はこんなに少ないんですね。

さてここでまた、皆さんからお叱りを受けるお話。私はこのコロナ禍の1年半の間に1度もマスクをしたことがありませんでした。私はマスクはしないのです。変人だからでしょうか。まあそれもあります。私が高齢者を1,700人もお預かりしている会社の責任者として、覚悟して決心して自分でマスクはしないと決めました。

ここで誤解なく正しくご理解ください。ヘルパーさんや社員さんなどの現場で働く人にはマスクは徹底させます。空間抗ウイルス噴霧機も100台程購入して

各館に導入しました。そして伊勢志摩サミットで各国の首相の抗ウイルス抗菌剤として使われた実績のあるアミノエリア(商品名)を手の消毒やマスクにスプレーして使用しています。私がマスクをしないのは、個人の選択であつて、会社の方針や決定ではありません。

では何故私はマスクをしないのでしょうか。それは①私は新型コロナをよく勉強しましたから、政府の決めたコロナ対策や専門家と言われる日本の多くのお医者さん達の考え方は間違いであると判断したからです。②コロナウイルスは1万分の1mmのマスクの間隔は1,000分の5mm。マスクをしていても50倍のすき間の中をウイルスはスルスルと通り抜けているのです。外科用マスクで50%、N95のコロナ専用マスクでも20%のウイルスはマスクから出てしまつています。一般のマスクではたゞの気休め程度なのです。

③それとコロナウイルスは空気中に出ると30cmくらいで乾燥して死んでしまいます(機能しなくなる)。口から出る飛沫にくつついて5m飛んだとしても(くしゃみや咳で)、1.5mくらいで死んでしまいますから、外の外気の中を歩いているのにマスクなんて何の必要もないんですね。(しかしマスクをしない私は多くの人にられました)①②③が私個人がマスクを必要としない理由となります。

次にコロナの不思議な実態についてどう

しても言いたいのですが、①何故日本(台湾ベトナム)の死者数が欧米に比べて異常に少ないのか。やはり(1)日本のコロナは弱毒性だったこと。(2)結核のBCGワクチンの接種で自然免疫が強化されていたこと。(3)清潔な生活習慣があったことでしょうか。なのにどうして欧米と同じコロナ対策を政府はするのでしょうか。外出制限なんて全く無意味なのです。②毎年インフルエンザに1,000万人が感染して1万人が死んでいるのに、コロナではたった5,000人弱の死亡。だから何でそんなにテレビで騒ぐのですか。私には全く理解できません。③コロナは子供(若者)には感染しにくく、感染してもインフルのような重症化はなく脳症で死ぬことがない「優しいウイルス」だと誰も言わないのはおかしい話です。④その反面でコロナ禍の自殺者が急増しています(1,000人増加)⑤飲食業はメチャメチャ⑥ホテル・旅行・航空会社は倒産の危機⑦政府は国債発行230兆円で(IMF発表)、日本は近い将来財政破綻確実。などなど日本はもう立ち直れないほどの酷い状態です。グローバルイズムの悪い人達の世界規模の策略の罠に日本ははまってしまいましたね。私にも日本国の経営を任せてもらえたら、私は私のやり方でこのコロナ禍の日本を救えたかもしれません。(冗談ですが本心)

わくわく

夢

ニュース【高齢者住宅】

ゴールドエイジ松寺  
デイと訪問介護併設のサ高住  
デイと訪問と生活支援で生活をサポートします。

2021

4月

No.171

